



ひょうご障害者福祉協同組合

ニュースレター

2016/12/01 発行 No. 2

【発行】

ひょうご障害者福祉協同組合
〒670-0814
兵庫県姫路市野里上野町1-1-6-101
TEL079-287-1577 Fax079-287-1578
E-mail : info@hyogokyokumi.jp

シンポジウム

‘はたらく喜び、くらしに笑顔を!’ 開催

ひょうご障害者福祉協同組合は、11月4日（金）姫路労働会館において、障害者雇用の促進を目的にシンポジウム‘はたらく喜び、くらしに笑顔を!’を開催いたしました。

組合設立から2年目、初めての取組でしたが、当日は定員を超えるたくさんの皆さんに参加をいただきました。参加いただきました皆さん、ありがとうございました。

基調講演・事例報告・体験発表と、各プログラムを通じて障害者雇用の現状と企業・団体・個人そして社会、それぞれの立場で推進に向けての取組の重要性を再確認することができました。参加の皆様アンケートからも、「大変参考になった。」「また是非参加したい。」等のご意見をいただき、組合の設立と活動にあらためて確信をもったところです。

今後も、組合員の皆さん、関係者の皆さんのご協力・ご支援をいただきながら、活動の充実を図っていききたいと思います。今号では、シンポジウム当日の内容を報告いたします。

【開催結果】

- 開催日時 11月4日（金）14:00～16:00
- 開催会場 兵庫県立姫路労働会館 1階 第5会議室（姫路市北条1-98）
- 主催 ひょうご障害者福祉協同組合
- 後援 厚生労働省 兵庫県 姫路市 一般財団法人兵庫県雇用開発協会
公益財団法人神戸新聞厚生事業団 兵庫県中小企業団体中央会
神戸新聞社 NHK 神戸放送局 サンテレビジョン
- 参加 65名
- 来賓 厚生労働省職業安定局雇用開発部障害者雇用対策課 課長補佐 高澤 航 様
兵庫県労働局職業安定部職業対策課 地方障害者雇用担当官 谷岡 善裕 様
兵庫県産業労働部政策労働局 局長 竹村 正樹 様
兵庫県産業労働部政策労働局しごと支援課雇用就業班 主幹 眞鍋 泰三 様
兵庫県中播磨県民センター県民交流室 交流観光参事 円増 万司 様
兵庫県議会議員 天野 文夫 様
姫路市議会議員 川島 淳良 様
姫路市議会議員 白井 義一 様



■プログラム

1. 基調講演「障害者雇用対策について」
講師 厚生労働省職業安定局雇用開発部障害者雇用対策課 課長補佐 高澤 航 氏
2. 事例報告「自立する力を育む」
報告 社会福祉法人あいむ 理事長 吉田 隆三 氏
3. 体験発表「私にとって、‘働く’ということ」
発表 大石 高子 さん
4. 全体討論

シンポジウム‘はたらく喜び、くらしに笑顔を!’
～ 障害者雇用の促進のために ～
主催 ひょうご障害者福祉協同組合
後援 厚生労働省 兵庫県 姫路市 (一財)兵庫県雇用開発協会 (公財)神戸新聞厚生事業団
兵庫県中小企業団体中央会 NHK神戸放送局 神戸新聞社 サンテレビジョン

主 催 者 挨 拶



ひょうご障害者福祉協同組合 理事長 本條義和

当組合は、本年4月全国で4番目に事業協同組合算定特例の認定を受けましたが、異業種としては全国初でございました。

今から7年前に事業協同組合算定特例が制度化されましたが、現在まで4組合しか認定されていません。それに対し、特例子会社は関係会社認定を合わせますと、621社・グループが認定されています。特例子会社制度が約40年の歴史があることを考え合わせても、組合による特例認定件数は、あまりにも少ないと言えます。

組合による特例認定は、中小事業主（特例事業主）にとっても障害者雇用が行いやすいというメリットがあるほか、障害者にとっても多種・多様な就労の選択機会があるというメリットもあります。

本日のシンポジウムを機会に、是非組合活動への参加をご検討いただきますようお願い申し上げます。

来 賓 挨 拶

兵庫県産業労働部政策労働局 局長 竹村 正樹 様

最近、雇用・働き方ということでは、いろんな課題が指摘されています。

社会経済的、地域の活性化という意味では、人手不足、特に医療・介護系が圧倒的に不足しています。加速度的に人口減少が進行しているなかで、働き方を巡っても様々な課題が直面しています。

より本質的なことは、‘働きたい！’と希望する人が、仕事を通じて自己実現を図っていくということが何より重要です。個々の企業が、障害者雇用を促進していくことは多々困難があります。そういったなか、ひょうご障害者福祉協同組合が設立された意義は非常に大きいと認識しています。組合が発展し障害者雇用が向上することを、心より期待申し上げます。



基 調 講 演「障害者雇用対策について」

厚生労働省職業安定局雇用開発部障害者雇用対策課 課長補佐 高澤 航 氏

障害者雇用の現状

障害者雇用については、この10年で大きく改善してきました。雇用率も向上しています。大企業では100人中2人以上が障害者、中小企業では100人中約1.5人が障害者という現状です。中小企業はなかなか障害者雇用が進んでいないと言えます。

障害者雇用「ゼロ」が全体の約3割あります。この3割を減少させる方法の一つとして事業協同組合があります。個々の企業での雇用が困難な場合、組合全体として雇用率の達成をめざす、当組合がこの事例であります。

平成25年改正障害者雇用促進法の施行

障害者雇用に関する制度については、例えば女性や若者或いは高齢者対策等々ありますが、それらと比較すると相当整備されていると言えます。制度として、仕組みとしてはかなりのメニューがあるのは事実なので、積極的に活用していただきと思います。

25年改正点として、一つは障害者に対する差別禁止及び合理的配慮の提供義務、もう一つが法定雇用率算定基礎の見直しで、平成30年度から精神障害者が雇用義務化され、法定雇用率も現在より上がる方向で検討しているところです。

平成29年度からの取組

精神障害者の方が増えている現状から、医療機関との連携が欠かせないという側面があり、精神科医療機関を中心に、ハローワーク等も連携を密にするモデル事業の実施を計画しています。次に、障害者雇用安定奨励金を予算要求しています。雇用する事業所が、障害者の職場定着に資する、障害特性に配慮した雇用管理や雇用形態の見直し等の措置について計画を策定し、計画に基づいて措置を講じた場合の助成金支給を考えています。また、精神・発達障害者しごとサポーターの養成についても検討し、10年後には障害者雇用の中核になるよう充実させていきたいと考えています。



実 例 報 告 「自立する力を育む！」

社会福祉法人あいむ 理事長 吉田 隆三 氏

私共の法人は、主に児童福祉を行っている法人です。発端は児童養護施設、そして保育園、また発達障害児の支援センター、グループホーム、次のステップとして就労支援B型の施設運営を行っています。

「そもそも福祉って？」仲間と話している時に投げかけられた言葉です。「国民の義務である納税を果たせる人を創ること」という答えが返ってきました。

「障害者も納税の義務を果たすこと」という言葉も返ってきました。「障害者」「納税」、私の概念に無かった言葉でした。障害者には「支援」ということが先にたっていたので、これも衝撃でした。

私共は、子どもたちに、生きること、自立することを、共に生活しながら、どう伝えるかを常に考えています。障害がある、なし、に関わらず、人としてどう生きるか？どう自立するか？ということが前提にあります。

障害者のまず「居場所創り」を行う、そして自立するための支援ということを主に考えていましたが、就労するため、労働者として自立していくための支援へとあらたに変えて行かなければいけないと気付かされました。

次に、障害者の仕事や作業内容が課題となりますが、社会のニーズに応じた仕事を開拓していくことが重要です。視点を改めて考えれば、もっと就業の機会は広がるのではないかと思います。



障害者雇用という現状を見れば、一般企業あるいはNPO等の団体が一番に浮かびますが、本来、福祉に携わってきた社会福祉法人は、どうなんだろう？我々も積極的に関わっていかなければという課題があります。

子供たちと関わっていて思うことは、「育ち」という側面を観たときに、生活を工夫する、創造する、楽しいことをみんなで創る、いわゆる「物作り」を通じて、社会が求める就労のニーズに繋がっていくのではないかと感じています。

障害の有無、種別を超えて、人としての成長の原点は「物作り」であり、就労という意味でも、それがキーワードになってくると考えています。

体 験 発 表 「私にとって、‘働く’ということ！」

大石 高子 さん

私の障害は、統合失調症です。19歳の時に家族や周囲の人たちに専門の病院での受診をすすめられました。自分では体調が悪いわけでもなく、何も変わりはないと思っていました。また、精神科への大きな抵抗感もありました。当時の精神科医療に対する私自身の思い込みが強かったこともあります。

いくつか病院を受診しましたが、5年間ほどの引きこもりの時期がありました。何もしたくない、考えたくない、意欲が湧かない状態でしたが、その後、デイケアへ通うことを通じて、少しずつ前向きな気持ちになって来ました。

姫路への転居をきっかけに、知人の紹介ではりま福祉会の作業所へ通所するようになりました。いろんな作業などを経験することから、「働きたい！」という気持ちが強くなっていきました。

作業所の指導員の方と相談しながら手続きを進め、障害者枠で現在勤務しているマックスバリューに就職することができました。今、1日4時間・月20日間の勤務体制で働いています。

就職して、今、毎日がとても楽しく、いろいろな事が勉強になり充実感があります。何より社会との繋がりが出来た、少しでも役に立っているという喜びがあります。また、これまでお世話になった方々、現在の職場の皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。

人は、誰でも、障害があっても、いろんな可能性をもっています。私は、それを信じて、これからも皆さんの協力をいただきながら頑張っていきたいと思います。



兵庫県議会 各議員団との懇談を実施



- ◆10月24日（月）公明党県議員団との政策要望懇談（ホテル日航姫路）
- ◆11月24日（木）自民党県議員団‘絆の会’との懇談・施設視察（姫路市国際交流センター）



上記県議団との懇談会を実施しました。組合からは、理事長ほか役員、事務局が出席し、組合設立の経緯、現在の事業等について、また県議からの算定特例制度に対する質問について説明を行いました。組合事業への理解と協力、障害者雇用促進のための施策拡充を強く要望しました。

【新規加入組合員のご紹介】

- ◆特定非営利活動法人中播磨峰の会 様
(神崎郡福崎町西田原1399-1)
- ◆社会福祉法人あいむ 様
(姫路市広畑区蒲田383-3)
- ◆阿比野建設株式会社 様
(姫路市広畑区正門通4-3-3)
- ◆特定非営利活動法人コムサロン21 様
(姫路市呉服町48 大手前通りハトヤ第一ビル5F)
- ◆社会福祉法人はなさきむら 様
(佐用郡佐用町米田字寺山304-24)

よろしく
どうぞ

ご寄付ありがとうございました！

11月14日、山口史郎様（姫路市豊富）より組合に対し寄付をいただきました。

山口様には、組合が取り組んでいます障害者雇用促進にもご理解をいただき、また開始しましたお米の販売事業にも、大変ご協力いただいております。

今後の組合事業の充実のためお志を大切にに使わせていただきます。ありがとうございました！



ちょこっと、お役立ちメモ

お酒を‘チャンポン’で飲むのは、なぜ体に悪いの？

いよいよ忘年会シーズンですね！

そこで、少し調べてみました。お酒は、ご存じの通り種類によってアルコールの濃度が違いますね。濃度が違えば、肝臓はいちいちそれに適応して分泌する酵素の濃度を変えていかなければなりません。これが、かなり負担になるのです！



また、お酒には糖分、アミノ酸、コハク酸など、100種もの有機物質が含まれていますが、これもお酒の種類によって変わるので、数種類のお酒をチャンポンで飲めば何百種にもなります。

肝臓は、これらに対しても一つひとつ対処し、毒を消したり有用なものに変えたりと、フル回転で働かなくてはなりません。



脳や神経機能は、既にほろ酔い気分になっているというのに、えらい騒ぎです！

この様に同じ量のアルコールを飲んだとしても、肝臓にかかる負担はチャンポンにした方が大きくなるわけです。



ちょこっと参考にさせていただいて、楽しい忘年会で一年を締めくくっていただきますように！（M）

【編集後記】

組合員の皆様、また関係者の皆様には、当組合の活動にご協力いただき、誠にありがとうございました。

6月に「ニュースレターNo. 1」を発行して、半年も経ってしまいました。この間に、2回くらいはこのレターの発行を予定していたのですが(@@;)誠に、申し訳ございません。

設立2年目を迎えて、組合として春以降具体的な事業・活動を開始いたしました。

特定事業主様との、共同購入等の取引、新たに設けた宍粟市山崎町及び姫路市保城の事業所（マイドリーム山崎店・保城店）でのお米と卵の販売事業、また今回報告致しましたシンポジウムの開催、それぞれの事業推進に組合員の皆様の積極的なご支援をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

まだまだ体制的にも事業内容も充分ではありませんが、それぞれの場面で障害者の方の‘働く’姿に接することに、事務局としても喜びと今後への楽しみを感じています。

来年も事業の拡充と、このレターの誌面充実も図り、組合員の皆さんへの情報提供と繋がりを密にしていきたいと考えています。

(少し早いですが) 来年も、引き続きご協力ほど、よろしく願い申し上げます。

皆様、良いお年をお迎えください。(事務局一同)

